

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	仙台高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械システム工学科			6	12	18	7	
	マテリアル環境工学科				6	12	7	
	建築デザイン学科				13	19	7	
	総合工学科情報システムコース		0		15	15	7	
	総合工学科情報通信コース				15	15	7	
	総合工学科知能エレクトロニクスコース				15	15	7	
	総合工学科ロボティクスコース		3		8	11	7	
	総合工学科マテリアル環境コース				7	10	7	
	総合工学科機械・エネルギーコース				13	16	7	
	総合工学科建築デザインコース				9	12	7	
	情報電子システム工学専攻			0	22	22	7	
	生産システムデザイン工学専攻 生産システム工学コース				17	21	7	

	生産システムデザイン工学専攻 建築デザイン学コース				2	19	7	
(備考) 1) 総合工学科が平成29年度に設置された。 2) 機械システム工学科・マテリアル環境工学科・建築デザイン学科は、平成28年度をもって募集を停止しており、従前の教育課程に基づいた実務経験のある教員等による授業科目の単位数を記載している。 3) 総合工学科応用科学コース（4年次に転コース制によって配属される）については転出元コースに準ずる。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.sendai-nct.ac.jp/student/guidance/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	仙台高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/yakuin-20240401.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～2029年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理工学府長・研究院長	2024年4月1日～2026年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月1日～2026年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	仙台高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
各コース・学科で掲げられたカリキュラムポリシーに基づいて構築された教育課程では、各ディプロマポリシーを実現するために必要な能力を涵養することとなる。個々の授業においては、必要な能力の育成の一部を担うこととなることに留意して、シラバスを作成している。シラバス作成に関し、記載すべき事項等に関して留意すべき事項を全教員にメールで徹底している。また、必修科目においては国立高専機構のモデルコアカリキュラムとの対応付けに注意し、学生が学習計画を立てることができるように作成することとしている。 シラバスについては、前年度の 3 月末までに作成し、Web 公開している。	
授業計画書の公表方法	https://www.sendai-nct.ac.jp/student/guidance/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
学習意欲については、各学生が年度当初に Web で学習等達成度記録に年度ごとの目標を立てる仕組みができており、年度末には達成度を記載し、振り返りと次年度に向けた目標設定ができるようにしている。指導教員からの所見も入力することとしている。 学修成果の評価については、「仙台高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する細則」が定められている。学生には、学生便覧により周知されている。 履修科目の認定は、出席時数が年間授業時数の 3 分の 2 以上の科目については、当該科目を履修したものと認定している。 各学生の学修成果については、授業における小テストや課題レポート、定期試験や中間試験を基に、シラバスに記載された評価方法で 100 点法により評価した学年成績を確定している。卒業研究に関しても、発表の前刷り・発表内容・卒業論文等の内容を基に 100 点法により評価している。 科目の可否は、履修科目と認定され、学年成績の評価も 60 点以上の科目について、進級認定会議での議を経て校長から単位を修得したものと認定されている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 客観的な指標として、履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出(100点満点で点数化)した値を設定し、総合的な履修・学修状況を把握している。値は、学期ごとに、成績が確定した時点で計算し、学内の諸会議で情報共有している。保護者宛てにクラスごとの平均点・順位を記載した成績通知表を送付している。なお、科目の成績は、学年末成績を基に、下記の基準により評価している。 S (90～100点) 特優 A (80～ 89点) 優 B (70～ 79点) 良 C (60～ 69点) 可 D (0～ 59点) 不可	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	学生便覧及び https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-new/ https://www.sendai-nct.ac.jp/student/guidance/ に成績の評価と基準を掲載するとともに、保護者宛てにも通知している。
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 「仙台高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する細則」が定められている。 学年の課程の修了を認定された学生で、一般科目と専門科目を合わせて167単位以上、そのうち、一般科目75単位以上、専門科目82単位以上を修得している学生が、卒業認定会議の議を経て校長から卒業を認定される。ただし、学修単位の合計数は60単位を超えないものとしている。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	学生便覧及び https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	仙台高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R4jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/kansaR4.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和6年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/r6-keikaku.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/5th-keikaku.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.sendai-nct.ac.jp/college/info-disclosure/self-ass/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.sendai-nct.ac.jp/college/info-disclosure/external-ev/#02
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械システム工学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-old/) (概要) 1. 主体性と協調性をもつ人間性豊かな人材の養成 2. 創造的で高度な実践的技術者の養成 3. 国際的視野で社会に貢献できる技術者の養成
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-old/) (概要) 機械システム工学科は、機械工学に関する確かな基礎力と、未来社会を担う電気・材料分野を融合した新機械工学分野に対する応用力を備えた、エンジニアリングデザイン能力の高い機械系技術者を養成する。そのため、以下に掲げる能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。 1. 機械工学の柱となる基礎力学 2. 「ものづくり」技術の基礎となる設計手法や加工技能 3. 機械工学とその周辺工業技術に対する応用力 4. 複合システムに対する応用力、コミュニケーション能力、工業技術の社会的役割・責任を自覚できる素養
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-old/) (概要) 機械システム工学科は、「ものづくり」に必要な「考える力」と「実現する力」を身に付けることを主眼として、「ものづくり」を担う融合技術に対応できる技術的・学問的知識を修得し、科学技術への責任を自覚した取組ができる技術者を養成する。具体的には以下を教育方針として教育課程を編成する。 1. 機械工学の柱となる基礎力学の学習を学年進行に従い内容を深めながら、その知識を修得させる。 2. 生産技術に関する科目の学習・実習を通して、「ものづくり」技術の基礎となる設計手法や加工技能を修得させる。 3. 実験・実習・演習・セミナー等の体験的学習により、機械工学とその周辺工業技術に対する応用力を育成する。 4. インターンシップ等の実践科目や卒業研究を通して、複合システムに対する応用力、コミュニケーション能力、工業技術の社会的役割・責任を自覚できる素養を育成する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：募集要項及び https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-old/)

(概要) 本校の入学者に期待される人間像及び入学者選抜の基本方針は、次のとおりです。 1. 入学者に期待される人間像 1) 技術者として活躍しようという意欲とそれを実現できる能力のある人 2) 科学技術に興味・関心がある人 3) 自ら考えて行動し、粘り強く努力する人 4) 他人への思いやりがあり、責任感がある人 2. 入学者選抜の基本方針 1) 中学校卒業程度の基礎的な学力を身に付けているかどうかを重視します。 2) 自ら考えて行動し、粘り強く努力する姿勢、科学技術への興味・関心、他人への思いやりや責任感のある人かどうかを考慮して評価します。 3) さらに推薦による選抜においては、筋道を立てて自分の考えを相手に伝える能力も評価の対象とします。

学部等名 マテリアル環境工学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-old/)
(概要) 1. 主体性と協調性をもつ人間性豊かな人材の養成 2. 創造的で高度な実践的技術者の養成 3. 国際的視野で社会に貢献できる技術者の養成
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-old/)
(概要) マテリアル環境工学科は、マテリアル・環境の講義・実験を通して、環境に視点を持ち、多様なマテリアル開発や工業製品への応用の素養を持つ技術者を養成する。そのため、以下に掲げる能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。 1. マテリアル環境工学の中核となる材料工学の知識とスキル 2. 地球環境を支える基礎概念と環境分析技術等の基盤技術 3. マテリアルの設計、開発に必要な専門知識と作製・評価技術並びに、地球環境の基礎概念と環境分析に関する総合的な能力 4. マテリアル環境工学をキーワードとして、創造性や問題解決能力を高め、環境維持と社会発展の両立に貢献できる能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-old/)
(概要) マテリアル環境工学科は、金属、セラミックス、有機・高分子材料など多様なマテリアルの諸性質に関する知識とその作製・評価技術を身に付けると共に、地球環境の基礎概念と環境分析技術を学修させ、地域社会から世界に貢献できる技術者を養成する。具体的には以下を教育方針として教育課程を編成する。 1. マテリアル環境工学の中核となる材料工学の知識とスキルを体系的に確実に修得させる。 2. 地球環境を支える基礎概念と環境分析技術等の基盤技術を修得させる。

3. マテリアルの設計，開発に必要な専門知識と作製・評価技術並びに，地球環境の基礎概念と環境分析について，実験・実習・演習を通して，総合的な教育を実施する。 4. 卒業研究等を通して，マテリアル環境工学をキーワードとして，創造性や問題解決能力を高め，環境維持と社会発展の両立に貢献できるマテリアル系の総合エンジニアを育成する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：募集要項及び https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-old/)
(概要) 本校の入学者に期待される人間像及び入学者選抜の基本方針は、次のとおりです。 1. 入学者に期待される人間像 1) 技術者として活躍しようという意欲とそれを実現できる能力のある人 2) 科学技術に興味・関心がある人 3) 自ら考えて行動し、粘り強く努力する人 4) 他人への思いやりがあり、責任感がある人 2. 入学者選抜の基本方針 1) 中学校卒業程度の基礎的な学力を身に付けているかどうかを重視します。 2) 自ら考えて行動し、粘り強く努力する姿勢、科学技術への興味・関心、他人への思いやりや責任感のある人かどうかを考慮して評価します。 3) さらに推薦による選抜においては、筋道を立てて自分の考えを相手に伝える能力も評価の対象とします。

学部等名 建築デザイン学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-old/)
(概要) 1. 主体性と協調性をもつ人間性豊かな人材の養成 2. 創造的で高度な実践的技術者の養成 3. 国際的視野で社会に貢献できる技術者の養成
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-old/)
(概要) 建築デザイン学科は，建築耐震構造の安全性など災害への対応，高齢化社会及び障害者バリアフリーなど社会環境整備への対応，地方中小都市活性化への対応，環境共生・エネルギー問題への対応など，社会の要求が高度化している状況の中で，建築学に基礎を置き，住まいから都市に至る住環境・社会環境のプランニング&デザインを行うための基礎知識と基礎技術を身に付けた技術者を養成する。そのため，以下に掲げる能力を身に付け，所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。 1. 建築デザインに関わる知識や技術を体系的に理解する能力 2. 建築デザインを支えるハードウェアやソフトウェア等の基礎的素養と実践的な技術 3. 建築デザイン学全般の計画・設計・建設・マネジメントまでの必要なコミュニケーション能力，マネジメント能力 4. 建築デザイン学を軸としながらも，地域や企業などとも連携しながら様々な技術や分野に対応できる知識と能力

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-old/)
(概要) 建築デザイン学科は、建築及び都市の計画・デザイン・建設・マネジメントまでの幅広い分野をカバーし、広く社会に貢献できる技術者を養成する。具体的には以下を教育方針として教育課程を編成する。 1. 建築デザインに関わる知識や技術を体系的に確実に修得させる。 2. 建築デザインを支えるハードウェアやソフトウェア等の基礎的素養と実践的な技術を修得させる。 3. 設計製図、実験、実習を通して、建築デザイン学全般の計画・設計・建設・マネジメントまでの必要なコミュニケーション能力、マネジメント能力を段階的に育成する。 4. 卒業設計及び卒業研究等を通して、建築デザイン学を軸としながらも、地域や企業などとも連携しながら様々な技術や分野に対応できる知識と能力を育成する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：募集要項及び https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-old/)
(概要) 本校の入学者に期待される人間像及び入学者選抜の基本方針は、次のとおりです。 1. 入学者に期待される人間像 1) 技術者として活躍しようという意欲とそれを実現できる能力のある人 2) 科学技術に興味・関心がある人 3) 自ら考えて行動し、粘り強く努力する人 4) 他人への思いやりがあり、責任感がある人 2. 入学者選抜の基本方針 1) 中学校卒業程度の基礎的な学力を身に付けているかどうかを重視します。 2) 自ら考えて行動し、粘り強く努力する姿勢、科学技術への興味・関心、他人への思いやりや責任感のある人かどうかを考慮して評価します。 3) さらに推薦による選抜においては、筋道を立てて自分の考えを相手に伝える能力も評価の対象とします。
学部等名 総合工学科
教育研究上の目的（公表方法：学校概要、学生便覧及び https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-new/)
(概要) 1. 主体性と協調性をもつ人間性豊かな人材の養成 2. 広い視野をもつ実践的で創造的な技術者の養成 3. 地域や国際社会に貢献できる技術者の養成
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：学校概要、学生便覧及び https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-new/)

(概要)

仙台高等専門学校は目標とする人材を育成するため、本校に在籍し準学士課程において以下に掲げるような能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

1. 工学分野についての幅広い知識と技術を活用できる実践的な能力
2. 異なる分野を融合させて新しい価値を創出できる創造的な能力
3. 国際的に通用する基礎的なコミュニケーション能力
4. 技術者として社会的役割や責任を自覚して行動する姿勢

(各コースのディプロマポリシー)

・情報システムコース

総合工学科のディプロマポリシーに加え、情報システムコースは、その目標とする人材を育成するため、以下に掲げる能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

1. ソフトウェアの体系的な知識と技術
2. ハードウェアやネットワーク等の基盤技術
3. 情報システムの視点に立った論理的かつ実践的思考能力
4. 情報システムの社会的な役割を理解し、技術的課題を解決できる能力

・情報通信コース

総合工学科のディプロマポリシーに加え、情報通信コースは、その目標とする人材を育成するため、以下に掲げる能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

1. 情報通信、ネットワークの体系的な知識と技術
2. ソフトウェアやハードウェア等の基盤技術
3. 情報通信の視点に立った論理的かつ実践的思考能力
4. 情報通信の社会的な役割を理解し、技術的課題を解決できる能力

・知能エレクトロニクスコース

総合工学科のディプロマポリシーに加え、知能エレクトロニクスコースは、その目標とする人材を育成するため、以下に掲げる能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

1. 電子工学の体系的な知識と技術
2. ソフトウェアやネットワーク等の基盤技術
3. 電子・情報系の視点に立った論理的かつ実践的思考能力
4. 知能化の進むハードウェア技術の社会的な役割を理解し、技術的課題を解決できる能力

・ロボティクスコース

総合工学科のディプロマポリシーに加え、ロボティクスコースは、その目標とする人材を育成するため、下に掲げる能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

1. ロボティクスの体系的な知識と技術
2. 機械・電気・電子・情報等の基盤技術
3. ロボティクスの視点に立った論理的かつ実践的思考能力
4. ロボティクスの社会的な役割を理解し、技術的課題を解決できる能力

・マテリアル環境コース

総合工学科のディプロマポリシーに加え、マテリアル環境コースは、その目標とする人材を育成するため、以下に掲げる能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

1. マテリアルサイエンスの体系的な知識と技術
2. 化学、生物学等の基盤技術と知識
3. マテリアルサイエンスと地球環境の視点に立った論理的かつ実践的思考能力
4. マテリアルサイエンスの社会的な役割を理解し、技術的課題を解決できる能力

・機械・エネルギーコース

総合工学科のディプロマポリシーに加え、機械・エネルギーコースは、その目標とする人材を育成するため、以下に掲げる能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

1. 機械工学、電気工学、材料工学の分野にわたるエネルギーシステムに関する体系的な知識と技術
2. 要素技術や融合・複合システムの設計・分析・評価等の基盤技術
3. エネルギー技術と工学の視点に立った論理的かつ実践的思考能力
4. エネルギー技術と工学の社会的な役割を理解し、技術的課題を解決できる能力

・建築デザインコース

総合工学科のディプロマポリシーに加え、建築デザインコースは、その目標とする人材を育成するため、以下に掲げる能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

1. 建築デザインの体系的な知識と技術
2. 都市及び建築に関わる基盤技術
3. 建築デザインの視点に立った論理的かつ実践的思考能力
4. 建築デザインの社会的な役割を理解し、技術的課題を解決できる能力

・応用科学コース

総合工学科のディプロマポリシーに加え、応用科学コースは、その目標とする人材を育成するため、以下に掲げる能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

1. 自然科学の体系的な知識と関連技術
2. 情報・電気電子・機械・材料等の基盤技術
3. 自然科学の視点に立った論理的かつ実践的思考能力
4. 科学と技術の社会的な役割を理解し、技術的課題を解決できる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学校概要、学生便覧及び
<https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-new/>）

（概要）

ディプロマポリシーに掲げた能力の育成を目的に、「くさび形教育」，「スパイラル教育」，「アクティブ・ラーニング」を共通基盤として、以下の内容を備えたカリキュラムを編成する。

1. 工学分野の実践的な能力の育成
 - ・専門科目の内容の連続性・関連性・継続性を考慮した学年配置を行う。
 - ・実験・実習・演習などの実体験を伴う科目を数多く配置する。
2. 創造的な能力の育成
 - ・低学年から高学年まで、創造性の育成に関連した幅広い科目を配置する。
3. 国際的に通用する基礎的なコミュニケーション能力の育成

- ・英語や国語などの科目を配置するとともに、様々な科目においてディスカッションやプレゼンテーションの機会を設定する。
4. 技術者として社会的役割や責任を自覚して行動する姿勢の育成
- ・社会人として求められる多様な教養や倫理観を育成するために、広範なリベラル・アーツ科目を配置する。

これらの科目群に係る単位修得の認定は、定期試験並びに小テスト、レポート、プレゼンテーションなどの成績を総合的に評価し認定する。

科目の成績は、下記の基準により評価する。

- S (90～100 点) 特優
A (80～ 89 点) 優
B (70～ 79 点) 良
C (60～ 69 点) 可
D (0～ 59 点) 不可

(各コースのカリキュラムポリシー)

・情報システムコース

総合工学科のカリキュラムポリシーに加え、情報システムコースでは、以下の方針に従ってカリキュラムを編成する。

1. 情報システムの中核となる情報工学基礎、情報処理等の知識と技術を体系的に習得させる。
2. 情報システムを支える計算機システム、電気電子・通信等の情報・電子系に必要とされる基本的な知識を習得させる。
3. 情報システムの実験・実習科目を通して、論理的かつ実践的思考能力を育成する。
4. インターンシップや卒業研究等を通して、情報システムの社会的な役割を理解し、技術的課題を解決できる能力を育成する。

・情報通信コース

総合工学科のカリキュラムポリシーに加え、情報通信コースでは、以下の方針に従ってカリキュラムを編成する。

1. 情報通信の中核となる情報通信工学基礎、情報処理等の知識と技術を体系的に習得させる。
2. 情報通信を支える電気電子・通信、ネットワーク、計算機システム等の情報・電子系に必要とされる基本的な知識を習得させる。
3. 情報通信の実験・実習科目を通して、論理的かつ実践的思考能力を育成する。
4. インターンシップや卒業研究等を通して、情報通信の社会的な役割を理解し、技術的課題を解決できる能力を育成する。

・知能エレクトロニクスコース

総合工学科のカリキュラムポリシーに加え、知能エレクトロニクスコースでは、以下の方針に従ってカリキュラムを編成する。

1. 電子機器の中核となるエレクトロニクス及び各種デバイス等の知識と技術を体系的に習得させる。
2. 機器の知能化を支えるプログラミング及びマイクロコンピュータ技術等の情報・電子系に必要とされる基本的な知識を習得させる。
3. 電子・情報系の実験・実習科目を通して、論理的かつ実践的思考能力を育成する。

4. インターンシップや卒業研究等を通して、知能化の進むハードウェア技術の社会的な役割を理解し、技術的課題を解決できる能力を育成する。

- ・ロボティクスコース

総合工学科のカリキュラムポリシーに加え、ロボティクスコースでは、以下の方針に従ってカリキュラムを編成する。

1. ロボティクスの中核となるロボット工学とその関連分野の基礎知識と技術を体系的に習得させる。
2. ロボティクス技術を支える機械力学、電気・電子回路、情報技術等のロボティクスに必要とされる基本的な知識を習得させる。
3. ロボティクスの実験・実習科目を通して、論理的かつ実践的思考能力を育成する。
4. インターンシップや卒業研究等を通して、ロボティクスの社会的な役割を理解し、技術的課題を解決できる能力を育成する。

- ・マテリアル環境コース

総合工学科のカリキュラムポリシーに加え、マテリアル環境コースでは、以下の方針に従ってカリキュラムを編成する。

1. マテリアル環境の柱となるマテリアルサイエンスの知識と技術を体系的に習得させる。
2. 地球環境の理解の基礎となる化学・生物学の基本的知識を習得させる。
3. マテリアルサイエンス、環境分析に関する実験・実習科目を通して、論理的かつ実践的思考能力を育成する。
4. インターンシップや卒業研究等を通して、マテリアルと環境の視点から創造性や問題解決能力を高め、環境維持と社会発展に貢献できる能力を育成する。マテリアル技術の社会的役割を理解し、技術的課題を解決できる能力を育成する。

- ・機械・エネルギーコース

総合工学科のカリキュラムポリシーに加え、機械・エネルギーコースでは、以下の方針に従ってカリキュラムを編成する。

1. エネルギーシステムの柱となる機械工学、電気工学、材料工学等の知識と技術を体系的に習得させる。
2. エネルギーシステムを支える「ものづくり」や電気回路、材料物性等の要素技術や複合・融合システムの創造・設計に必要とされる基本的な知識を習得させる。
3. エネルギーシステムやその要素技術の実験・実習科目を通して、論理的かつ実践的思考能力を育成する。
4. インターンシップや卒業研究等を通して、エネルギー技術と工学の社会的な役割を理解し、技術的課題を解決できる能力を育成する。

- ・建築デザインコース

総合工学科のカリキュラムポリシーに加え、建築デザインコースでは、以下の方針に従ってカリキュラムを編成する。

1. 建築デザインの中核となる都市・建築学とその関連分野の基礎知識と技術を体系的に習得させる。
2. 建築デザイン技術を支える建築計画、建築設計、建築環境、建築構造等の未来の都市・建築を生み出すために必要とされる基本的な知識を習得させる。
3. 建築デザインの実験・実習科目を通して、論理的かつ実践的思考能力を育成する。
4. インターンシップや卒業研究等を通して、建築デザインの社会的な役割を理解し、技術的課題を解決できる能力を育成する。

・応用科学コース

総合工学科のカリキュラムポリシーに加え、応用科学コースでは、以下の方針に従ってカリキュラムを編成する。

1. 自然科学の中核となる古典力学、量子力学、熱統計力学等の知識と技術を体系的に習得させる。
2. 最先端の科学技術を支える物性、情報、非線形システム等の応用物理・物理工学系に必要とされる基本的な知識を習得させる。
3. 自然科学の実験・実習科目を通して、論理的かつ実践的思考能力を育成する。
4. インターンシップや卒業研究等を通して、科学と技術の社会的な役割を理解し、技術的課題を解決できる能力を育成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：募集要項、学校概要及び

<https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-new>）

（概要）

本校の入学者に期待される人間像及び入学者選抜の基本方針は、次のとおりです。

1. 入学者に期待される人間像

- 1) 技術者として活躍しようという意欲とそれを実現できる能力のある人
- 2) 科学技術に興味・関心がある人
- 3) 自ら考えて行動し、粘り強く努力する人
- 4) 他人への思いやりがあり、責任感のある人

学力の三要素と期待される人間像の対応関係は以下の通りです。

「知識・技能」 1)、2)

「思考力・判断力・表現力」 3)

「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」 1)、3)、4)

2. 入学者選抜の基本方針

次の三つの方法で選抜します。

1) 推薦選抜

在籍学校の成績が優秀で、学校長から推薦された志願者のうち、本校の期待する人間像に合致する人を、調査書及び作文と面接の総合評価によって選抜します。

2) 学力選抜

本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した人を、学力検査（数学、理科、英語、国語、社会）及び調査書の総合評価によって選抜します。学力検査では数学を重視します。

3) 帰国生特別選抜

外国における教育を受けた人で一定の条件を満たす志願者のうち、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した人を、学力検査（数学、理科、英語、国語）と面接の総合評価によって選抜します。

学部等名 情報電子システム工学専攻

教育研究上の目的（公表方法：学校概要、学生便覧及び

<https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-new/>）

(概要) 1. 主体性と協調性をもつ人間性豊かな人材の養成 2. 広く深い視野をもつ実践的で創造的な技術者の養成 3. 地域や国際社会に貢献できる技術者の養成
卒業の認定に関する方針（公表方法：学校概要、学生便覧及び https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-new/）
(概要) 仙台高等専門学校は目標とする人材を育成するため、本校に在籍し専攻科課程において以下に掲げるような能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。 1. 実践的技術者としての高度にかつ幅広い基本的能力・素養 2. 融合複合領域におけるエンジニアリングデザイン能力 3. 国際的に通用するコミュニケーション能力 4. 社会的責任を考えて研究・開発する能力 5. 高度な実践的技術者に求められるチームワーク力、リーダーシップ力、企画調整力
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学校概要、学生便覧及び https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-new/）
(概要) ディプロマポリシーに掲げた能力の育成を目的に、専攻科では、準学士課程で培った実践的かつ創造的能力、及び人間力を更に高め、融合複合領域において国際的に通用する高度な実践的技術者を養成するため、以下の内容を備えたカリキュラムを編成する。 1. 準学士課程で培った実践的技術者としての基本的能力・素養をより高度にかつ幅広く習得することが可能な、一般・専門科目群を配置する。 2. 融合複合領域におけるエンジニアリングデザイン能力を育成するために、専攻実験・演習、専攻研究等の異なる技術の創造的な融合に取り組む科目を配置する。 3. 国際的に通用するコミュニケーション能力を育成するために、英語、専攻英語、専攻研究等の日本語・外国語による討論や対外的な研究発表を行う科目を配置する。 4. 社会的責任を考えて研究・開発する能力を育成するために、倫理観を涵養する技術者倫理、思想史、及び地域・企業と連携して教育するインターンシップ等の科目を配置する。 5. 高度な実践的技術者に求められるチームワーク力、リーダーシップ力、企画調整力を育成する科目、創造工学演習、専攻実験・演習、専攻研究等を配置する。 これらの科目群に係る単位修得の認定は、定期試験並びに小テスト、レポートなどの成績を総合的に評価し認定する。 科目の成績は、下記の基準により評価する。 S（90～100点） 特優 A（80～89点） 優

B (70～79 点) 良
C (60～69 点) 可
D (0～59 点) 不可

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：募集要項、学校概要及び

<https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-new/>)

(概要)

本専攻科の入学者に期待される人間像及び入学者選抜の基本方針は、次のとおりです。

1. 入学者に期待される人間像

- 1) 自ら学ぶための基礎的な学力と資質を有する人
- 2) コミュニケーションの基本を身に付けた人
- 3) 社会の一員として、社会に貢献する気概を有する人
- 4) 自発的に問題を発見し、解決する意欲を有する人
- 5) 豊かな人間性を有する人

学力の三要素と期待される人間像の対応関係は以下の通りです。

「知識・技能」 1)

「思考力・判断力・表現力」 2)、4)

「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」 3)、4)、5)

2. 入学者選抜の基本方針

1) 推薦選抜

在籍高専の成績が優秀で、学校長から推薦された志願者のうち、本校の期待する人間像に合致する人を、調査書及び面接の総合評価によって選抜します。

さらに、生産システムデザイン工学専攻では TOEIC に基づく英語能力を評価に加えます。

2) 学力選抜

本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した人を、学力検査（英語（TOEIC スコア利用）、数学、専門）と調査書の総合評価によって選抜します。

3) 社会人特別選抜

本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した人を、出身学校の調査書、自己推薦書、小論文及び面接の総合評価によって選抜します。

学部等名 生産システムデザイン工学専攻

教育研究上の目的（公表方法：学校概要、学生便覧及び

<https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-new/>)

(概要)

1. 主体性と協調性をもつ人間性豊かな人材の養成
2. 広く深い視野をもつ実践的で創造的な技術者の養成
3. 地域や国際社会に貢献できる技術者の養成

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：学校概要、学生便覧及び

<https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-new/>

(概要)

仙台高等専門学校は目標とする人材を育成するため、本校に在籍し専攻科課程において以下に掲げるような能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。

1. 実践的技術者としての高度にかつ幅広い基本的能力・素養
2. 融合複合領域におけるエンジニアリングデザイン能力
3. 国際的に通用するコミュニケーション能力
4. 社会的責任を考えて研究・開発する能力
5. 高度な実践的技術者に求められるチームワーク力、リーダーシップ力、企画調整力

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学校概要、学生便覧及び
<https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-new/>）

(概要)

ディプロマポリシーに掲げた能力の育成を目的に、専攻科では、準学士課程で培った実践的かつ創造的能力、及び人間力を更に高め、融合複合領域において国際的に通用する高度な実践的技術者を養成するため、以下の内容を備えたカリキュラムを編成する。

1. 準学士課程で培った実践的技術者としての基本的能力・素養をより高度にかつ幅広く習得することが可能な、一般・専門科目群を配置する。
2. 融合複合領域におけるエンジニアリングデザイン能力を育成するために、専攻実験・演習、専攻研究等の異なる技術の創造的な融合に取り組む科目を配置する。
3. 国際的に通用するコミュニケーション能力を育成するために、英語、専攻英語、専攻研究等の日本語・外国語による討論や対外的な研究発表を行う科目を配置する。
4. 社会的責任を考えて研究・開発する能力を育成するために、倫理観を涵養する技術者倫理、思想史、及び地域・企業と連携して教育するインターンシップ等の科目を配置する。
5. 高度な実践的技術者に求められるチームワーク力、リーダーシップ力、企画調整力を育成する科目、創造工学演習、専攻実験・演習、専攻研究等を配置する。

これらの科目群に係る単位修得の認定は、定期試験並びに小テスト、レポートなどの成績を総合的に評価し認定する。

科目の成績は、下記の基準により評価する。

- S (90～100 点) 特優
A (80～ 89 点) 優
B (70～ 79 点) 良
C (60～ 69 点) 可
D (0～ 59 点) 不可

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：募集要項、学校概要及び

<https://www.sendai-nct.ac.jp/college/edu-object/object-new/>)

(概要)

本専攻科の入学者に期待される人間像及び入学者選抜の基本方針は、次のとおりです。

1. 入学者に期待される人間像

- 1) 自ら学ぶための基礎的な学力と資質を有する人
- 2) コミュニケーションの基本を身に付けた人
- 3) 社会の一員として、社会に貢献する気概を有する人
- 4) 自発的に問題を発見し、解決する意欲を有する人
- 5) 豊かな人間性を有する人

学力の三要素と期待される人間像の対応関係は以下の通りです。

「知識・技能」 1)

「思考力・判断力・表現力」 2)、4)

「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」 3)、4)、5)

2. 入学者選抜の基本方針

1) 推薦選抜

在籍高専の成績が優秀で、学校長から推薦された志願者のうち、本校の期待する人間像に合致する人を、調査書及び面接の総合評価によって選抜します。

さらに、生産システムデザイン工学専攻では TOEIC に基づく英語能力を評価に加えます。

2) 学力選抜

本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した人を、学力検査（英語（TOEIC スコア利用）、数学、専門）と調査書の総合評価によって選抜します。

3) 社会人特別選抜

本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した人を、出身学校の調査書、自己推薦書、小論文及び面接の総合評価によって選抜します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.sendai-nct.ac.jp/college/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	13 人	－					13 人
	－	25 人	50 人	1 人	14 人	2 人	92 人
	－	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		29 人					29 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：仙台高専のホームページ「教員紹介」にて公開 https://www.sendai-nct.ac.jp/college/staff/					
c. F D （ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械システム工学科	人	人	%	人	1 人	%	人	人
マテリアル環境工学科	人	人	%	人	1 人	%	人	人
建築デザイン学科	人	人	%	人	1 人	%	人	人
総合工学科	280 人	291 人	103.9%	1400 人	1432 人	102.3%	人	7 人
合計	280 人	291 人	103.9%	1400 人	1432 人	102.3%	人	7 人
情報電子システム工学専攻	30 人	30 人	100.0%	60 人	61 人	101.7%	人	人
生産システムデザイン工学専攻	40 人	40 人	100.0%	80 人	87 人	108.8%	人	人
合計	70 人	70 人	100.0%	140 人	148 人	105.7%	人	人

(備考) 総合工学科が平成 29 年度に設置され、機械システム工学科・マテリアル環境工学科・建築デザイン学科は、平成 28 年度をもって募集が停止された。

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械システム 工学科	0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
マテリアル環 境工学科	0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
建築デザイン 学科	0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
総合工学科	283 人 (100%)	103 人 (36.4%)	171 人 (60.4%)	9 人 (3.2%)
合計	283 人 (100%)	103 人 (36.4%)	171 人 (60.4%)	9 人 (3.2%)
情報電子シス テム工学専攻	29 人 (100%)	4 人 (13.8%)	24 人 (82.8%)	1 人 (3.4%)
生産システム デザイン工学 専攻	42 人 (100%)	8 人 (19.0%)	33 人 (78.6%)	1 人 (2.4%)
合計	71 人 (100%)	12 人 (16.9%)	57 人 (80.3%)	2 人 (2.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
ディプロマポリシーに掲げた能力の育成を目的に、「くさび形教育」、「スパイラル教育」、「アクティブ・ラーニング」を共通基盤としてカリキュラムを編成し、Web シラバスや時間割を公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 学修成果の評価については、「仙台高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する細則」が定められており、厳格に適用されている。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械システム工学科	167 単位		
	マテリアル環境工学科	167 単位		
	建築デザイン学科	167 単位		
	総合工学科	167 単位		
	情報電子システム工学専攻	62 単位		
	生産システムデザイン工学専攻	62 単位		
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.sendai-nct.ac.jp/college/info-disclosure/flw-low/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	総合工学科	234,600 円	84,600 円	56,050～247,850 円	(内訳) ・スポーツ振興センター共済掛金：1,550 円 ・教材・教科書代等：45,000 円～65,000 円 ・学生会入会金：2,500 円 ・学生会費：7,000 円 以下は入寮者のみが対象 ・入寮費：2,000 円 (入寮費は名取キャンパスのみ) ・寄宿料：700 円又は 800 円 (2 人部屋 700 円、1 人部屋 800 円・月額) 700 円×12 ヶ月＝8,400 円 800 円×12 ヶ月＝9,600 円 ・共益費 7,350 円×11 ヶ月＝80,850 円 (上記は名取キャンパス分) 12,600 円×12 ヶ月＝151,200 円 (上記は広瀬キャンパス分) ・保護者会費： 1,200 円 (名取キャンパス) 2,000 円 (広瀬キャンパス) ・寮生会費：7,000 円 (広瀬キャンパスのみ)
	情報電子システム工学専攻			9,550～193,350 円	・スポーツ振興センター共済掛金：1,550 円 ・教科書代：8,000～24,000 円 以下は入寮者のみが対象 ・寄宿料：700 円又は 800 円 (2 人部屋 700 円、1 人部屋 800 円・月額) 700 円×12 ヶ月＝8,400 円 800 円×12 ヶ月＝9,600 円 ・共益費 12,600 円×12 ヶ月＝151,200 円 ・寮生会費：7,000 円
	生産システムデザイン工学専攻			9,550～104,000 円	・スポーツ振興センター共済掛金：1,550 円 ・教科書代：8,000 円～10,000 円 以下は入寮者のみが対象 ・入寮費：2,000 円 ・寄宿料：800 円 (月額) 800 円×12 ヶ月＝9,600 円 ・共益費 7,350 円×11 ヶ月＝80,850 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 1 年次の導入教育としてオリエンテーションや2 年次にコース選択を行うためのフォローアップ講座を実施している。また、専門教育への移行期に入る3 年生向けの校外研修、さらには4 年次の研修旅行をとおして、産業界の現状を理解し、学修に意欲的に取組めるよう配慮している。就学支援のための教育支援コーディネータを複数配置し、学生が放課後に相談できる体制をとっている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア教育推進室が中心となり、低学年からのキャリア教育、合同企業説明会等の情報周知、適性検査や学外講師による就職に関する特別講演会等を実施している。また、4 年次のインターンシップの実施前にガイダンスを行い、現場での就業体験をとおして、学生本人の進路を考えるように指導している。さらに、4 年次の学生向けに、当該年度の10 月に「就職・進学のためのガイドブック」を配布し、これを用いたガイダンスも実施して、進路選択の指導を行い、就職活動や進学の準備を行わせている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 専門のカウンセラーと校内相談教員から成る学生相談室を充実させている。特に、カウンセラーによる学生相談は、毎日実施できる体制を取っている。学生対象のメンタルヘルスアンケートや心理教育を実施し、学生の適応能力の伸長を図っている。特別支援が必要な学生に対しては、医師やカウンセラーと連携しチームで支援していく体制を取っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.sendai-nct.ac.jp/college/info-disclosure/flw-low/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。